

平成 30 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



白 澤 政 和 (しらすわ まさかず)

1949 年 1 月 28 日 生まれ

【授賞理由】

貴殿のケアマネジメント研究は認知症の人の生活支援に有用な実践方法として普及し、わが国の福祉政策において根幹をなす概念となりました。ケアマネジメントの確立により認知症のある人のストレスを高めることが可能となり認知症ケアにさらなる専門性と多様性を付加させました。

【略歴】

1975 年 4 月～1982 年 3 月	大阪市立大学生生活科学部助手
1982 年 4 月～1988 年 3 月	大阪市立大学生生活科学部講師
1988 年 4 月～1994 年 9 月	大阪市立大学生生活科学部助教授
1994 年 10 月～2011 年 3 月	大阪市立大学生生活科学部教授
2011 年 4 月～	大阪市立大学名誉教授 桜美林大学大学院老年学研究科教授

【褒賞】

- ・第 7 回吉村仁賞受賞／『ケースマネジメントの理論と実際』（中央法規出版）
- ・第 3 回福武直賞受賞／『ケースマネジメントの理論と実際』（中央法規出版）

【業績等】

認知症のある人を含めた要介護者等が質の高い生活が可能となるよう、ケアマネジメントの研究を行い、その普及を目指してきた。具体的には、わが国の介護保険制度での介護支援専門員制度や障害者総合支援法の相談支援専門員制度において、ケアマネジメントの考え方を導入することに貢献し、その定着を図ってきた。当初のケアマネジメントは、身体的な障害に対応する方法に偏りがちであったが、認知症の人のストレス（能力、意欲、嗜好等）を含む肯定的側面や主観的側面の重要性を見だし、ケアマネジメントを深化させ、実践現場にその考え方と具体的な方法の普及を目指してきた。とくに、在宅や施設での認知症の人に対するケアプラン作成時において、その人が潜在的に有しているストレスを取り入れることや BPSD が生じる身体生理的・精神心理的・社会環境的背景をていねいに分析することの重要性を指摘し、そのことを実践現場でわかりやすく説明し、その普及活動を行ってきた。

利用者の主体的立場に基づき身体・心理・社会面でアセスメントし、利用者やその環境でのストレスを活用したケアマネジメントを行うことで、要介護高齢者や障害者の継続した在

宅生活を支援する方法の確立に寄与し、認知症の人の QOL を高めることができることを明らかにした。こうした認知症におけるケアマネジメントの考え方は、在宅のケアマネジメント領域だけでなく、介護施設やグループホームでの認知症の人へのケアプラン作成に対しても影響を与えた。BPSD が生じる身体生理的・精神心理的・社会環境的背景を利用者の主体的な立場からていねいに分析することで、適切な支援ができることを示し、非薬物的支援の重要性を指摘し、認知症ケア全体に影響を与えた。さらに、ケアマネジメントを介して、認知症の人が在宅生活を続けるうえでの地域の課題を解決していく方法について明らかにしてきたが、その普及にも貢献してきた。

今後は、認知症のある人を含めた要介護高齢者に対するケアマネジメントから見えてくる地域の課題解決方法を明確に示すことに重点を置いた研究・教育を発展させていくことで、認知症のある人ができる限り住み慣れた地域で生活が続けられることに貢献したい。